



知っておきたい病巣疾患

～医科歯科連携のキーワード～

相田能輝

東京都開業 相田歯科・耳鼻科クリニック
連絡先：〒116-0011 東京都荒川区西尾久6-2-12 相田ビル1F

A Story of Focal Infection ——The Bridge Over the Medical and Dental Fields

Yoshiteru Aida

キーワード：病巣疾患、医科歯科連携

Q 1. 病巣疾患とは

病巣疾患は、多くは感染症に起因する体の一部に慢性微少炎症が起こり、そこが原病巣になって他の部位で病域が発症することである。病巣疾患の考え方方は20世紀初頭、米国シカゴ大学医学部長のF・ビリングスの研究によって広く知られるようになった。

病巣疾患は口腔内が一番生じやすいとし、その60%が扁桃(扁桃病巣疾患)、25%が歯(歯性病巣疾患)であるとするビリングスの説は一時期欧米で強く支持され、入院患者が次々に抜歯されることになる。しかし、当時の免疫学は未成熟で、1940年代以降、抗生素による治療が主流となると、米国歯科学会は1951年に米国歯科学会誌「Journal of American Dental Association」で歯科疾患と全身疾患の関係を否定し、欧米における病巣疾患説は姿を消した(図1)。

さらに今を遡ること90年前、医学的な論争のなかで長く封印されることとなった口腔と全身の健康の関係を示す歴史的な発見があった。

米国の歯科医学研究者ウェ斯顿・A. プライス(1870~1948)は、ウサギを使った実験によって、有

病者から抜歯した感染した歯をウサギの皮下に移植すると、そのウサギに疾患が再現することを発見し1923年に発表する。プライスの研究は詳細を極め、各種病原菌における違いやさまざまな根管充填材による殺菌効果などの検証が行われる。そのなかで、神経や血管まで露出した歯牙が、当時はありふれた病気であった結核の病原菌が侵入する経路となり、リンパ系、頸部リンパ節を経て病原菌が体内に運ばれる可能性を指摘しているが、現在、歯の感染に起因する頸部リンパ節の腫脹が抜歯によって速やかに消失する事実は広く知られている。プライスは根管充填した歯が病巣となる疾患として、さらに循環器系の16に及ぶ疾患を紹介している。第一次世界大戦当時、心臓疾患は連鎖球菌感染が原因であり、症例の90%に連鎖球菌が関与していると考えられていた。感染心内膜炎の主たる原因菌は緑色連鎖球菌とされていたが、プライスは感染した歯から同じ菌群をすでに見出しており、抜歯によってほぼ完治に至った多くの症例を示していた。

プライスは歯の感染から生じる疾患を「退行性疾患」と呼んだ。この用語は現在、徐々に健康状態が

病巣感染の歴史

B.C. 650年	楔形文章にアッシリア王と病気と齶歯の関連についての記載
B.C. 400年	Hippocrates : 関節リウマチと口腔疾患の関連
1785年	Stoll : 扁桃とリウマチ性心疾患の関連
1989年	Eyerlen : 扁桃とリウマチの関連
1900年	Hunter : 原病巣としての "Oral Sepsis" を指摘
1904年	Gürich : 関節リウマチの原病巣としての扁桃
1909年	Pässler : 原病巣としての扁桃
1916年	Billings : 「病巣感染」の概念の提唱(扁桃60%, 歯25%)
1934年	Andrews : 掌膿瘍疱症は扁桃・歯性病巣と関連
1951年	米国歯科学会が「病巣感染」の概念を否定し論争に幕引き

図1 1951年に米国歯科学会が「病巣感染」の概念を否定して以降、欧米では「病巣感染」の概念は霧散したが、日本では扁桃に関心のある耳鼻科医を中心にして以後も研究が継続された。(形浦昭克: 病巣感染を考える。金原出版、1995年より改変引用)

3大病巣疾患(炎症)

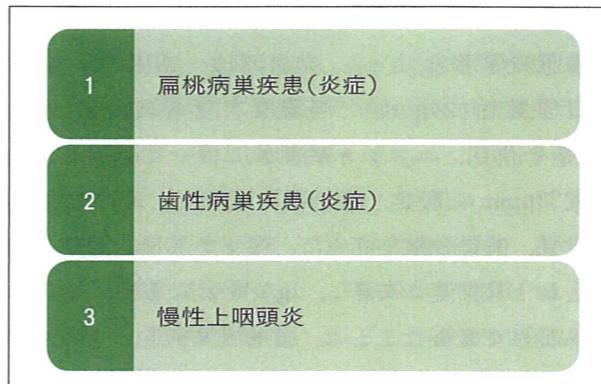


図2 堀田修氏は扁桃摘出後のIgA腎症の患者が風邪をひいた際、血尿が出ることに着目。2008年には第3の病巣疾患として慢性上咽頭炎を加えた。

低下していくことと理解されている。退行性疾患は麻疹やおたふく風邪などと同じように、特定の細菌に偶然に接触したために発症し、その結果として心臓や腎臓、関節などが侵されるのだとされている。プライスの研究が継続して進められていたならば、象牙細管に侵入した細菌の殺菌法も見つける機会があったに違いない。今日までの歴史のなかで退行性疾患によって多くの人が苦しみ、命を失っていたことは残念でならない。

Q 2. 3大病巣疾患とは

日本においては扁桃に関心のある耳鼻科医を中心

扁桃と呼吸

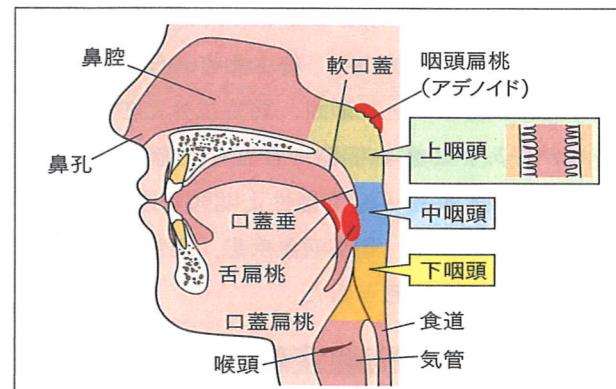


図3 上咽頭はチューブ状で纖毛円柱上皮細胞で覆われ、多数のリンパ球が入り込んでいる。

扁桃病巣感染二次疾患と考えられている疾患

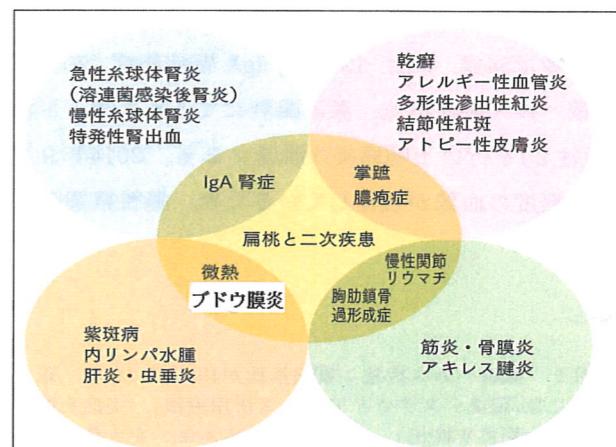


図4 病巣疾患の好発部位は扁桃・上咽頭・歯科領域である。そのなかでは、扁桃に関連した研究の蓄積がもっとも豊富で、多くの二次疾患と扁桃が関係していることが報告されている。(志藤文明. 扁桃—50のQ&A. 南山堂, 1988より改変引用)